

第7回『みんなで創る自治基本条例町民会議』グループ討議 ③

< Aグループ >

出席 ～ 宮田委員、岡本委員、杉原委員、西島委員、三浦委員
(事務局～浅野、橋本)

テーマ 『こんなまちに住みたい』を地域でつくるには！

【町の景観について】

- 美幌町に入ったら町の顔がわかるような景観づくりをしたい。
- 町内に入ったら、突然、景観が変わるような人を感動させるようなイメージ。
- 町のシンボルになるような植物(花)を発見する。その花を見て、美幌町と認識できるようなもの。

【町民(住民)の取り組みについて】

- これからの時代、何でも町(行政)でやってもらうことはできない。自分達でどこまでやれるか決めることが必要。
- 関係がないと思っている人に、どのように関心を持ってもらうか。例えば、自治会活動のどのような部分に取り組んでもらいたいのか提示することも必要。
- 行政と住民の協働だけではなく、住民と住民との協働、異なった世代同士の協働が必要。
- 何でも他の人にやってもらっていたもの(人まかせにしていたもの)を自分達でどこまでできるのかを考える。
- 町づくり等の取り組みについて、何にも情報を得ようとしないで批判ばかりする。批判をする以上は、何らかの情報を得ようと努めなければいけない。
- 社会教育について、町(行政)で何でもやってもらっている。以前は自分達で考えて取り組んでいた。町からのアドバイス、手伝いの度合いを考えてみることも必要。

【町(行政)の取り組みについて】

- 自治会の活動が一時期より低迷している気がする。自治会の組織を機能させるために町がもう一度、テコ入れしてはどうか。
- 行政はPR下手である。重要な情報をどう提供するか大事。情報提供を行政に義務づけるシステムを構築できないか。
- 町(行政)は、色々な手段(広報・IT 等)、場所(商業の場 等)で常にタイムリーな情報を提供する。
- 町(行政)と住民に差がある。その差を縮めるための方法を模索する。住民の声を聞くシステ

ム(サポーター制度の取り組み)の充実を図る。

○以前のように、国や道を頼りには出来ない。自分達(町と住民)で町づくりをする。

【町づくりについて】

○美幌町は農業の町である。農家の若い世代の活動が必要であり、その機会を提供することも必要。

○農業のスタイルも変わってきており、消費者と他の産業とどのように連携していくのか考えることも必要。農業へのサポートをどうするのか。

○若い世代の人と話す実感するが、何か取り組みたいと思っている。何かきっかけづくりをしてあげる。若い世代にどのように町づくりに参加してもらうのか考えなくてはならない。

○以前のグループ討議から出ている、「一人一役」も良いと思うが、若い世代にとって義務的にならないか。

○ボランティアは長時間、長期間にするとイヤになって続かない。自分の好きなときに、好きな時間でボランティアができるような運動を取り組むのはどうか。

○外に向けてのPRが下手。基本的な町の情報である交通・気候が良いことをアピールする。

○自分達で作出す。最初から町(行政)だのみではダメ。町全体で取り組む(農業だけ、商業だけ、行政だけではダメで可能性がある人、全員で取り組む。)

【条例づくりについて】

○条例の中に全自治会と町長(行政)は常に向かいあわなければならないというようなものを盛り込んでも良いのではないか。

○自分の好きなときにやるボランティア宣言のようなものはどうか。

○毎日、ボランティアを10分間取り組む努力義務を盛り込むのはどうか。

○住民にとって実現可能な重くならないもの。町民としての心がけを規定する。

○条例の中に行政用語を多用するとわかりづらくなる。かたくなならないようなルールづくりが必要。

○センテンス(文)は、短く・単純に子供でもわかるように。

○美幌町80周年で作られた町民憲章は40年たった今でも古さを感じさせないすばらしいものである。極端なことを言えば、町民憲章を前文にしても良いくらいである。

【グループ討議③まとめ】

①美幌町をアピールできる景観づくり。

②町(行政)だのみからの脱却。

③町(行政)からの情報発信の充実。

④異業種間の交流による町づくりの取り組み。

⑤町民憲章をベースとした前文(条例)づくり。

以上。

第7回みんなで創る自治基本条例町民会議 Bグループ会議録

出席者：小森委員、大原委員、大江委員、松岡委員、村上委員、井倉委員、竹下委員 事務局(石坂)

前回までのグループ討議を経て、今回は前文作成に向けた討議となる。

前文には、他市町村の条例では「地域の歴史や風土」「まちづくりの位置付け」「自然環境」「文化」などが織り込まれている。まちづくりの位置づけなどは、本町では総合計画にも出てくる。

前文についての討議となると、いきなりでなかなか難しい。「こういう町にしたい。」というテーマは未来に向かったものであり、前2回に渡って討議してきた。これからの討議は、美幌町が置かれている現状と未来の共通認識を持つことが必要ではないか。

前文といえば憲法が有名だが、憲法の前文は基本的な姿勢を規定している。今まで討議してきた内容もキーワードとして入ってくるのではないか。

町政について議論する際、50年後のことを意識して考えなければならない。だが、未来の共通認識がない。これからは人口などが相当縮減されていくといわれている。それが大きく外れないとすれば、まちづくりにおける大きな骨組みが変わっていくことを、そして議論をする土台そのものが変わるということを理解する必要がある。

前文を作成するにあたっては、大きく项目的に議論するのか、それとも総体的に議論していくのがいいか。

こういった議論の末には、難解なものが出来てしまうのではないか。町民のための条例の前文なので、子どもが見てもわかるようなシンプルで分かり易いものがよいのでは。

基本線は「美幌町を良くしよう」ということになろうかと思うが、そのような柱があって、そこに肉付けするように前文をつくっていくべきなのではないか。

憲法や他市町村の条例では、それが最高法規であることが規定されている。そういったものを盛り込んでいくべきではないか。

条例内の規定内容は、その時代や情勢に応じて柔軟に改正していくべきだが、前文は未来永劫揺るぎないまちづくりの姿勢を規定するべき。その一つは「自治」つまり「自ら治める」ということではないだろうか。いつの時代であっても住民が自ら治めるというまちづくりはかわらない。それを前文に規定すればよいのではないか。

住民は行政にやらしてもらおうという気質がある。自治の主役は住民である。また、美幌町の歴史についての記述が必要。

今美幌町に住んでいる者の大部分は、昔からこういう町だと思っている。が、昔は道路も何もなかった。そういった意味では、当時の町民のまちづくりへの参加は半端なものではなかっただろうと思う。そういった積み重ねがあってようやく今の状況になった。その認識の無さが、自分達がまちづくりの主体であるという気概が薄れてきている原因の一つだと思う。改めて、この町を発展させていくのは自分達であるという意識を持つことが必要

住民がその意識を持てるような言葉を前文に入れた方がよい。

条例が最高規範であるという位置づけが必要だ。

既存の条例は目的を持って作られている。どの条例にも存在しないこれから作るこの条例が、他条例とかち合うことはあり得ない。またこの条例には罰則を規定するようなものになってはならない。自治基本条例のその「精神」が讃えられるようなものにすべき。

まちづくりを主観に作るべき。

前文について考えれば考える程、町民憲章と同じものになってしまうという感がある。

ニセコ町の前文では、町民の権利と責任と規定している。「義務」ではなく「責任」というのはとても良い。また、「権利」という規定は見る方の興味が沸く言葉。こういう前文であれば入り易いのではないか。

ニセコ町の条例では本文に情報を共有化し、知る権利を規定化している。

前文には、町の発展を望み、みんなでまちづくりしましょうといった決意が規定されるイメージ。

長い歴史を俯瞰で見れば、美幌町はまだ生まれたてとも言える。時間軸のどこに自分たちが置かれているかの共通認識を持たなければ、未来のまちづくりの議論ができない。

前文は、意見にもあったとおりシンプルで解り易いものが必要。その点から見て最高規範であることの規定が必要とは思えない。また、そもそも前文が必要なのかという議論もある。先ほど話しがあったように、手法として興味を沸かせるための前文でも良いと思う。

条例の目次のようなイメージでも良いのではないか。

もっともっと議論が必要だと思う。

ポイントが絞れていなかったのだろうか。条例について解説されているものなどがもっと必要ではないか。

議論を急ぎすぎている感がある。インスタントなものをつくろうとするものでは無いはず。

今後の展開としては、他団体等への提案や途中経過を発表する機会を検討している。

町の良いところ、悪いところをもっともっと本音でぶつけ合って、話し合いの土台をつくるべき。

住民、議会、行政それぞれの立場としての意見を交わせる場を設けることも可能であるし、必要性も感じる。

議論に時間をかけていけば出来上がっていくのであろうが、「前文」という具体的なテーマでは発言しづらい。

前文の方針を決め次に条例本体の議論に移ったとき、前文にこれも加えれば良かったというものが出れば随時直しても良いし、議論を戻しても良いのではないだろうか。

前文は、解り易いものが良い。食育の一環で朝食100%宣言をしたまちがあるが、切り口として例えば挨拶100%のまちを宣言するなどはどうか。町外からの来庁者が子ども見守りパトロールのステッカーを貼った車を見て『安心できる町』ととても良いイメージを持ってもらっている。そういう解りやすいまちづくりの言葉が並ぶような前文になれば良いのでは。

第7回『みんなで創る自治基本条例町民会議』（H20. 11. 7）

Cグループ討議議事概要 出席：菅野委員、遠國委員、松浦委員、上野委員
(事務局) 平井、沖崎

グループ討議を前回に引き続き行うこととなるが、今回は「前文」に盛り込むべき内容ということで、少し的を絞った形での議論をしていただく事となる。

グループ内で結論を出すのではなく、全体での協議や庁内検討委員会などへ投げかけることも想定しながら進めていければと考えている。

まずは皆さんの思いを順番に発言頂きたい。

- ・ 町民憲章の前文にある文言を取り入れてはどうかと考えている。
- ・ 例えば、「愛の鐘」など。

《参考》

美幌町民憲章

わたしたちは、美幌峠を仰ぎ、愛の鐘の鳴りひびく、美幌の町民です。

わたしたちは、ながい開拓の歴史と、輝かしい産業の町を誇りとして、おたがいのしあわせをねがい、ゆたかな明るい町をつくるために、この町民憲章をさだめます。

1. げんきで働き豊かなまちにしましょう
1. たがいに助けあいあたたかなまちにしましょう
1. きまりを守り明るいまちにしましょう
1. 環境をととのえ美しいまちにしましょう
1. 文化をたかめしあわせなまちにしましょう

- ・ 町の将来像を描いている総合計画の要素を取り込んで
- ・ 総合計画は10年を区切りとして見直されていくものである。また、現在の総合計画の中でも、永遠のまちづくり目標として町民憲章を基本に位置付けている。
- ・ 町民憲章には総合計画の要素が盛り込まれているという解釈も出来るので、もう少し具体的に論議を。
- ・ 前回までの議論の経過を見ると、全グループ共通して「あいさつ」「なごやか」「楽しい」というキーワードがあると感じていた。私は特に「あいさつ」や「会話」が重要と考えており、それが、町民憲章の前文にある「愛の鐘」という解釈が出来るのではないか。
- ・ 各委員が、朝の散歩や犬の散歩、通勤時の体験談を通して
「挨拶をきっかけとした会話への発展性」
「挨拶はマナーであるという重要性」
などの再認識を行った。
- ・ 散歩をしていて気付くのが道路脇や公園のゴミである。中でも買い物袋が目につく。町内のスーパーでは買い物袋の有料化も始まっているが、

コンビニの袋などが多く捨てられている。ゴミに関してのマナーは、町民だけでなく地域外の人にも巻き込まなくてはならない。

- ・ 例えば、「マナーを守ることを言い続けられる（発信する）町」というのはどうか。

-
- ・ 「ゴミ0（ゼロ）の町」宣言などもおもしろいのでは。

-
- ・ 環境をアピールするまち。全て（地球ー日本ー北海道ー美幌町）自然に守られていることの認識を持つことが必要。

-
- ・ F S C森林認証も活用し環境色を盛り込んでどうか。
-

～ 前文に対するまとめ ～

盛り込むべき2つの柱（要素）

1 町民があいさつを気軽に出来るまち

2 環境問題に対する姿勢（森林認証を含め）

今回の議題については、「前文」とのことであり、討議によりまとめまで終了いたしました。時間に少しゆとりがあるので、前回までのテーマ「こんなまちに住みたい」について、討議をさせていただきたい。前回、話し足りなかったことなどあれば、発言を。

-
- ・ やりたい事があった場合、力を1箇所に集中させる方法もあると思うが、分散させ互いが競い合う（切磋琢磨）ことをすれば、その分野に深みが増すのではないか。やりたい事を応援する町。

-
- ・ 自治会からの提案を活かす制度なども必要ではないか。

-
- ・ 平成12年当時、地域の環境整備として草刈りを自分で行った。周りからは役場の仕事と言われた事もあったが、人に見せられる地域を作るため「出来ることは自分たちで行う必要がある」との思いで継続してきた。今、やっと自治会員の増という形で成果が現れてきているが、10年かかった。

- ・ 自らが動くことの重要性を盛り込むことが出来ないかと思っている。

- ・ 現在、自治会の改革にも取り組んでおり、条例との連動に望みと期待を持っている。

-
- ・ これまでの自治基本条例には行政・議会・住民の責務は規定されているが、自治会についての規定は珍しいのではないか。

-
- ・ まちづくりを担う団体は自治会だけではないので整理が必要。行政の執行権が無いのに自治（会）という言葉が混乱を招くのでは。
-

-
- 全道的には約半数が自治会という制度を使っている（他は町内会等）。
 - 自治会の将来目標として、NPO組織化も検討している。法人化により、事業の受託も可能となり、自治会が活性化し町の活性化（資金の効率化への寄与など）へと繋がっていくのではと考えている。もっと多くの方達がNPOの勉強をし、制度の活用法も協議できないか。
-
- 地域の自治、地域の文化を大切にしたい。
-
- 文化が無いのか、気付かないのか、改めて「文化」と言われると言葉の定義が難しい。昔の美幌町は町が生きていたような気がするが・・・。
 - 昔からある伝統的なものとしては「亜麻」でしょうか。
-
- 吹奏楽やスポーツも文化として位置付けることが出来るのではないか。人が育たなければ、それらも発展しないということからすると文化は人づくりではないか。
-
- 農業において美幌町は機械化を導入するのが早かった。最新機器等の導入も文化とされるのでは。
-
- その地域限定で古くから根付いている習慣などがあると、他と比べる事ができ、独自の文化に気付きやすい。観光地や交通の要衝という条件から、人や情報が交流し、色々なことを取り入れて発展してきたこの地域としては文化には気付きにくいのかもかもしれない。
-
- 中標津町は人口が増えているが、そこを目的地にする人以外は人が来ないと聞いたことがある。人が流れる地域であるならば、そこには商機があるので商業にもっと力を入れるべきではないか。
-
- 医療などの生活条件や地理的条件からも、やはり、この町は「住みやすいまち」ということになる。
-